



こんにちは **日本共産党** 京都市議員

玉本なるみ

2月
市会報告

メール shikai@tamamoto-narumi.jp

玉本なるみ



市民を泣かせない! 福祉の充実を!

2016年度も教育福祉委員として頑張ります!



市民を追い詰めるのは許せない!



次々とこんな指示書が送られてきたら...

生活保護行政では、若い世代の方々に対して、就労の厳しい指導があります。働けるように指導や援助をすることは大切なことです。しかし、病気があり、不安もある方に対して、厳しく指導をやりすぎた結果、無理をして病気が悪化した40代男性の方がおられます。

「稼働能力不活用」という理由の指示書を見せていただきました。

福祉が市民を追い詰め、市民を泣かせる福祉行政に怒りが込み上げます。怠けて生活保護を受けたいと思う人はほとんどありません。健康になれば働きたいと思われています。しっかりと市民の命と暮らしに寄り添う福祉が求められます。

市長が「生活保護費が減って素晴らしい」などというのは大問題です。職員を追い詰め、結果、市民を追い詰めることになります。

本気で子育て応援を!

「保育園落ちた」「活躍したいのに、活躍できないじゃないか」というインターネットでのブログの発言から、日本全国で保育園待機児童の実態が大問題になりました。待機児童なのに、待機児童としてカウントしないしくみがあるのです。市長もとうとう、「数字上のゼロにとらわれることなく」と言わざるを得なくなりました。

保育園入所の決定通知は来たけれど、子ども2人が別々の保育園に行かなくてはならないと、「不本意入所です」と涙するお母さん



保育行政の改善を求めて頑張るママたち

が京都市に不服審査請求の提出に來られました。安心して子育てができ、働けるように、地域に認可保育園が必要です。

『保険あって介護なし』にはなりません!



来年3月から、要支援の方々を介護保険の枠から追い出して、京都市独自の総合事業の扱いとなります。その準備が始まっていますが、低い介護報酬の設定や無資格者の導入で安上がりの介護のシステムを作ろうとするのは許せません。個人の努力も必要ですが、公的な責任をしっかりと京都市が持つべきです。

右から2人目が玉本市議



参加されていたママが、「応援にたくさん出てきてくださったので、とても嬉しかった」と感想を寄せてくれました。頼れる存在に、もっともっと数も力もつけていかなければならないと思います。

市役所に保育入所の申し入れにママたちが来られた時に、お昼休みの時間帯だったので、出られる議員で応援に駆け付けました。

「頼りになる!」
と言われるように...



アンテナ